

一般演題 6 O6-05

高気圧酸素治療と地域医療連携。そして著効した脊髄神経疾患の1例

○柳 健次¹⁾ 須藤 優¹⁾ 川畠貴士¹⁾ 善波獎之¹⁾
江上祐市¹⁾ 深谷武徳¹⁾ 三浦邦久²⁾ 石原 哲²⁾

[1) 医療法人伯鳳会 東京曳舟病院 診療技術部 ME 課
2) 医療法人伯鳳会 東京曳舟病院 診療部救急科]

【地域医療連携】

当院は東京都の墨田区に位置しており、前身は白鬚橋病院である。東京都指定二次救急病院であり地域医療救急センターを標榜している。

糖尿病性下肢病変や、放射線治療後に生じる組織障害などの難治性疾患は患者のQOLを著しく低下させ、また様々なコストを要する。糖尿病性下肢病変に絞り込むことは難しいが、糖尿病全体の年間医療費は1兆1,997億円とある¹⁾。これに対し、高気圧酸素治療は病巣組織の低酸素状態を改善し創傷治癒を促す治療選択肢のひとつとして注目される。

しかし高気圧酸素治療装置は、周辺地域において一部の病院にのみ設置されており、利便性が悪い上、装置を保有していても適応疾患に関する周囲の認知度が低い。医療資源である高気圧酸素治療装置を有効に活用し、患者の治療効果向上させるためには、地域医療連携が重要であると考えた。

毎年都道府県別で東京都は4番目に治療装置が多い²⁾ものの、病院や診療所などの医療施設数は2022年時点で都内に26,014施設存在し、そのうち病院は629施設、一般診療所は14,689施設である³⁾。そのうち墨田区は、病院が13施設、一般診療所が236施設であり、墨田区内だけで249施設存在する。この医療施設数に対し、墨田区および隣接した7区において高気圧酸素治療装置を設置されている施設は10施設にとどまる。

当院は前身の頃より連携に積極的であった江東区にあるA病院をはじめとした施設と医療連携を取り複数の診療科より突発性難聴、脊髄損傷などの疾患を紹介されるようになり紹介元施設数や症例数も増加してきており、近年は放射線障害に対する紹介が増えている。

適応疾患はレセプトに明示されており、ニーズは高いものと考えるが、そのためには治療適応などを近隣施設や医師に周知する必要がある。これにより近隣施設からの紹介を通じることで患者は遠方まで行かずとも在住地域で高気圧酸素治療を受けられるようになり、かかりつけ医との連携により相乗的な治療効果が期待できる。

【症例報告】

75歳女性。背部痛を主訴に救急外来受診をされ検査入

院となる。疼痛が強いことから投薬に加え、神経ブロックやトリガーポイントも実施し、CT、心エコーなど各種検査を実施し胆のう炎を否定。頸長筋膜炎を疑いMRIを実施。MRIにて頸椎症と診断され、高気圧酸素治療を開始する。治療翌日より疼痛が軽減しブロックや投薬量が軽減。最終的にブロックなども必要なくなり軽快退院された。

参考文献

- 1) 厚生労働省 概算医療費データベース
- 2) 高気圧酸素治療安全協会 全国都道府県別装置設置施設数 および治療装置台数
- 3) 東京都 令和4年医療施設動態調査・病院報告結果報告書